

南州翁宿泊の家

勇敢な鹿児島県の武士、西郷隆盛（1828-1877）は、1828 年から 1877 年に大隅半島を旅していたときこの建物に泊まりました。西郷は日本の「最後のさむらい」と呼ばれており、日本の工業化の始まりとなった明治維新を主導した三人の偉大な武士のうちの一人です。この歴史的な建物では、彼が書いた掛け軸や、射撃練習中に壁に残した銃弾の穴を通して、今でも彼の存在を感じることができます。彼の愛用した火鉢と茶器も展示されています。

* 南州翁宿泊の家は、現在は個人の住宅となっているため、建物の一部のみが一般公開されています。